

# 続・香川県の経済

## ～2020年産業連関表より～

2026年5月

# 1. 県内生産額と粗付加価値額

- 香川県の県内生産額は増加傾向にあり、2020年の生産額は7兆5,083億円（2015年比で+1.3%）となった。
- 内生部門が3.5兆円前後で推移する一方で粗付加価値額が増加傾向にあり、2020年には初めて4兆円を超えた。
- 粗付加価値額の内訳をみると、雇用者所得が減少して営業余剰が増加、それに伴って雇用者所得の割合は低下している。



## 2. 域際収支

- 香川県の域際収支は移輸出、移輸入ともに増加傾向にあるが、2020年には移輸入が大きく伸びたことから、域際赤字が1,600億円を超えた。
- 香川県は四国で唯一、域際収支が拮抗していたが、近年は域際収支が徐々に悪化する傾向にある。



### 3. 一人当たり生産額等

- 一人当たり生産額と一人当たり粗付加価値額は年々増加しており、生産性が向上し続けているのが見て取れる。
- 一方、一人当たり雇用者所得は年々低下している。四国他県では多少の増減はあるものの、このような状況はみられず、香川県の特徴となっている。



(出所) 香川県産業連関表から四国銀行作成

## 4. 主要産業の変化

- 生産額は「商業」が最も大きく、「医療」や「非鉄金属精錬・精製」、「住宅賃貸料（帰属家賃）」等が続く。
- 近年は「医療」の存在感が年々増している。「その他の対事業所サービス」が上位に上がってきていること、「建築」の順位が年々低下傾向にあることなども近年の特徴である。

### 【香川県における主要産業の変化】

	2000年	2005年	2011年	2015年	2020年
1位	商業	商業	商業	商業	商業
2位	住宅賃貸料 (帰属家賃)	医療・保健	石油製品	非鉄金属 製錬・精製	医療
3位	食料品	石油製品	住宅賃貸料 (帰属家賃)	医療	非鉄金属 製錬・精製
4位	医療・保健	住宅賃貸料 (帰属家賃)	非鉄金属 製錬・精製	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)
5位	建築	金融・保険	医療	食料品	食料品
6位	金融・保険	食料品	食料品	金融・保険	その他の 対事業所サービス
7位	公務	建築	船舶・同修理	その他の 対事業所サービス	金融・保険
8位	石油製品	公務	公務	公務	公務
9位	教育	道路輸送 (除自家輸送)	金融・保険	建築	道路輸送 (除自家輸送)
10位	通信	非鉄金属 製錬・精製	建築	船舶・同修理	建築
全生産額に 占める割合	43.4%	46.6%	50.1%	47.6%	46.7%

## 5. 所得創出産業の変化

- 粗付加価値額が最も大きいのは「商業」で、そのほかには「医療」、「その他の対事業所サービス」、「公務」、「金融・保険」などが多くの付加価値を生み出している。
- 直近では9位に「建築」が入っている以外はすべて第三次産業で、香川県におけるサービス業の存在感が際立つ。

### 【香川県の粗付加価値額上位10業種の推移】

	2000年	2005年	2011年	2015年	2020年
1位	商業	商業	商業	商業	商業
2位	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)
3位	公務	金融・保険	医療	医療	医療
4位	医療・保健	医療・保健	公務	その他の 対事業所サービス	その他の 対事業所サービス
5位	教育	公務	金融・保険	金融・保険	公務
6位	金融・保険	教育	石油製品	公務	金融・保険
7位	建築	道路輸送 (除自家輸送)	その他の 対事業所サービス	教育	道路輸送 (除自家輸送)
8位	道路輸送	建築	教育	道路輸送 (除自家輸送)	教育
9位	食料品	その他の 対事業所サービス	道路輸送 (除自家輸送)	非鉄金属 製錬・精製	建築
10位	その他の 対事業所サービス	石油製品	非鉄金属 製錬・精製	建築	不動産仲介 及び賃貸
全付加価値額に 占める割合	51.6%	56.2%	56.1%	55.1%	53.7%

## 6. 外貨獲得産業の変化

- 2020年に最も多くの外貨を稼いだのは「商業」だが、純移輸出額では「非鉄金属精錬・精製」が一位であった。
- ただし、「非鉄金属精錬・精製」は域際収支が790億円ほど悪化している。そのほか「船舶・同修理」や「食料品」、「はん用機械」など、外貨獲得の主力産業のうち製造業の収支悪化が目立つ。
- 「商業」は2011年まで域際収支が赤字だったが、今では有力な外貨獲得産業になってきている。
- 鉱業や「石油製品」「乗用車」「通信・映像・音響機器」等の製造業が赤字産業だが、「情報サービス」や「研究」といったサービス産業も赤字となっている。

### 【香川県・2020年の外貨獲得産業】

(単位：百万円)

	移輸出額	移輸入額	域際収支	2015年比 (域際収支)
商業	553,127	▲421,478	131,649	+6,115
非鉄金属精錬・精製	405,244	▲104,660	300,584	▲79,025
食料品	268,850	▲222,061	46,789	▲23,866
船舶・同修理	154,177	▲26,859	127,318	▲60,296
プラスチック製品	105,553	▲72,886	32,667	+25,337
紙加工品	96,212	▲18,655	77,557	+3,543
生産用機械	86,951	▲61,422	25,529	▲2,929
石炭製品	84,263	▲4,260	80,003	+2,797
産業用電気機械	77,307	▲26,866	50,441	▲1,862
はん用機械	74,486	▲53,388	21,098	▲10,718
合計	2,957,076	▲3,121,122	▲164,046	▲135,014

## 7. 香川県経済の総括

### (1) 順調な経済成長と域際収支の悪化

- 香川県経済は中長期的に順調に成長している一方、これまで外貨獲得の主力だった製造業を中心として域際収支が悪化傾向にある。
- このままマネーの流出が増加していくと、資金循環力が弱まり、県内で生み出される付加価値（≒所得）の低下につながりかねないことが懸念される。既存産業の外貨獲得力の向上と、新たな外貨獲得産業の育成が求められるだろう。

### (2) 粗付加価値の分配

- 粗付加価値額が年々増加するなか、営業余剰（≒企業収益）が増加する一方で、雇用者報酬は減少している。
- 企業の収益力が向上していくことは重要だが、労働者への分配が低下しすぎると賃金水準の低下につながり、若者の流出を加速させかねない。
- 今後の香川県の経済、社会を考えれば、労働者に適正な分配がなされることが重要である。

#### Disclaimer

- 本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料は、当行が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。
- 本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。本資料に掲載された情報を利用したことによって利用者等に何らかの損害が発生したとしても、かかる損害について当行は一切の責任を負いません。
- 本資料に記載された内容は予告なしに変更されることがあります。